



## 患者参加型クリティカルパス作成のチェックリスト

患者用クリティカルパスは、患者と医療者のパートナーシップを強化する一つのツールとなっています。

しかし、クリティカルパスの目的が医療の最適化を図ることにある以上、「何が最適か」という議論は医療者のみで行うのではなく、患者の参加が大切と考えています。

そのため、「患者参加型クリティカルパス」の作成にあたっては、次のような点に配慮することが必要です。

患者は複数のクリティカルパスが提示された上で、どの治療を受けるかを選択できる。

達成目標とその判断基準が、患者用クリティカルパスにも明記されている。

開始の記載がある項目には、終了予定も記載されている。  
(例：手術室への入室時刻と退室予定時刻など)

痛みなど苦痛を伴う項目には、苦痛を伴うことが明記されている。  
(その苦痛の程度が客観的に示されていることが望ましい。)

医療者が観察する主な項目は、患者用クリティカルパスにも明記されている。

患者用クリティカルパスより詳細な情報や体験的知識を得るための環境が整備されている。

患者用クリティカルパスと異なる治療・看護が行われた場合は、その理由をたずねるように患者に説明している。

患者用クリティカルパスの作成に、患者や家族が参加する仕組みがある。

